
E N E O S リニューアブル・エナジーと低圧太陽光バルク開発で協業 第一弾として中部エリアにて 26 年中に 5MW の運転開始目指す

太陽光発電システムの設計・建設・メンテナンスを全国に提供する株式会社エクソル（代表取締役社長：鈴木 伸一、本社：東京都港区、以下、エクソル）は、E N E O S リニューアブル・エナジー株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：竹内一弘、以下、ERE）と、中部エリアにおいてバルクスキーム*での低圧太陽光発電所の開発について協業することを合意いたしました。

※ 複数の発電所を同時並行的に開発・建設することで、大規模な発電容量を確保するスキーム

【再エネ電力需要が拡大、NonFIT 型低圧太陽光発電所の建設が活発に】

2020 年 10 月、日本政府が「2050 年カーボンニュートラルの実現」を目指す方針を表明したことを契機に、再生可能エネルギーへの関心が一段と高まりました。これを受けて、太陽光発電などの再エネ電源を導入しようとする電力需要家は、企業や自治体を中心に年々増加しています。

再エネ導入に積極的な企業が増えたことで、「コーポレート PPA」の導入が広がっています。なかでも、需要家の施設とは異なる場所に設置された太陽光発電所で発電された電力を、一般の送電網を通じて供給する「オフサイトコーポレート PPA」が、自社に設備を持たずに再エネを導入できる手段として注目されています。そのため、FIT（固定価格買取制度）に頼らず、発電した電力を市場や需要家に直接供給する野立ての NonFIT 型低圧太陽光発電所の建設が活発になっています。

【需要家への再エネ電源供給、第一弾として 26 年中に 5MW の運転開始目指す】

このような状況で、エクソルには「オフサイトコーポレート PPA」に関する相談が多く寄せられています。

本事業では、低圧太陽光発電所については年間約 1,200 件、17MW の建設実績（屋根上含む）があるエクソルが、発電所開発に加え蓄電池活用やコーポレート PPA による売電に強みを持つ ERE と協働することで、このような市場のニーズに応えることを目指します。

エクソルが開発・建設した太陽光発電所を ERE に提供し、2026 年までに 50 件・設備容量 5MW 規模の発電所を 2025 年から順次着工し、2026 年中の運転開始を予定しています。

【全国の EPC ネットワークを活かし、さらなる再エネ電源の提供を目指す】

エクソルでは、全国の EPC とネットワークを形成し、工事仕様、設計思想など、日本全国の“太陽光発電所品質の統一化”を行い、“品質の良い発電所”の建設を進めています。このようにして建設された太陽光発電所を集約し、小売り電気事業者を通じて欲しい所に欲しいだけ再生可能エネルギーの提供を可能にする「オーダーメイド PV 開発サービス」を展開するなど、今後も、全国の需要家や発電事業者のニーズに応えられるサービスを充実させていきます。

【会社概要】

社名：株式会社 エクソル/ XSOL CO., LTD.
代表：代表取締役社長 鈴木 伸一（すずき しんいち）
本社：東京本社 〒105-0012 東京都港区芝大門 2-4-8 JDB ビル
ホームページ：<https://www.xsol.co.jp/>

【取材依頼・お問い合わせ先】

担当：広報宣伝企画課：治田、塚田
電話：03-5425-1258（代表）
受付時間：9:00-18:00（土日祝休み）
メール：koho@xsol.jp